

多摩川における飯室泥岩層産のイチョウガニ化石について (第一報)

武田正倫* · 増淵和夫**

On a fossil *Cancer japonicus* from the Imuro Formation (Kazusa Group) in the TAMA RIVER

Masatsune TAKEDA, Kazuo MASUBUCHI

1984年、6月10日、多摩川宿河原堰堤付近で、稲田中学1年、小松範一、三瓶厚の両君が、カン化石(はさみ脚)を発掘し、6月7日に科学館へ持ちこまれた。

このはさみ脚の化石は、現生種のイチョウガニ = *Cancer japonicus* Ortmann のものに同定される。現生種は、東京湾から九州西岸を経て朝鮮半島沿岸までの水深30~100mに分布している。イチョウガニ層は、Nations(1975)が、化石種を含めてまとめているが、日本産のイチョウガニの化石は記録されていない。

地層は、上総層群の飯室泥岩層である。発掘地域は、稲田登戸病院西方の崖を模式地とする飯室泥岩層の北限にあたり、堰堤が上流よりの土砂の堆積を阻んでいるために、常に新鮮な飯室泥岩層の露出がみられる。科学館では、同地域で1983年にエンコウガニ等(同定 武田)のカニ化石を発掘確認している。

正岡(1976)は、飯室泥岩層より、貝化石19種の優勢種を挙げ、飯室泥岩層の堆積環境を、外洋の影響がある程度受けた内湾と推定している。

上記のカニ化石は、この推定と矛盾しないと思われるが、今後は、現生種の生息環境と比較しつつ、堆積環境の推定を深めていきたい。

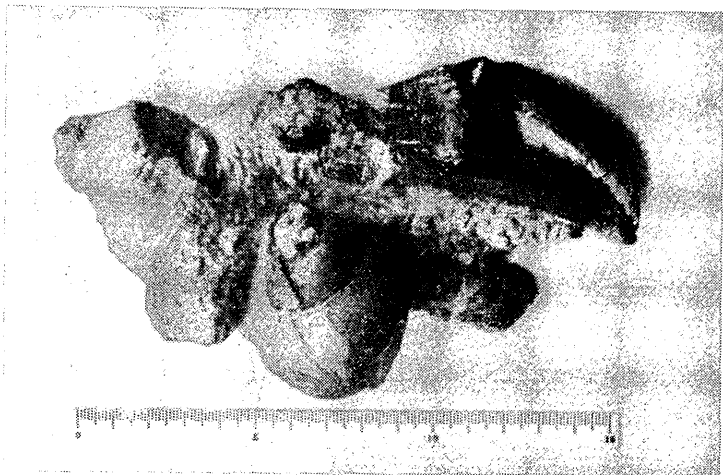
謝 辞

本報告を作成するにあたり、化石採集者の小松範一、三瓶厚の両君は心良く資料を提供して下さい、深謝に耐えない。都留文科大学講師 正岡栄治先生に、多大なる助言と本原稿のご校閲を賜わり、心から感謝の意を捧げる。

文 献

Nations, J.D.(1975) The genus *Cancer* (Crustacea: Brachyura): Systematics, biogeography and fossil record. Natn. Hist. Mus. Los Angeles County, Sci. Bull, 23.

正岡栄治(1976) 生田緑地公園周辺の地形・地質について、川崎市文化財調査集録、第11集
岡重文・菊地隆男・桂島茂(1984) 東京西南部地域の地質 地質調査所



*国立科学博物館動物研究部農学博士

**川崎市青少年科学館 指導係職員